

## 【第16回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：令和4年4月21日（木）午前10時～12時

場 所：松戸市衛生会館3階会議室

出席委員：8名（別紙名簿のとおり）

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課課長、公園緑地課課長補佐

21世紀の森と広場管理事務所長、同所長補佐

他4名

傍聴者：1名

議 事：

1. ワーキンググループの報告
2. パークマネジメントプランの検討について
3. その他

配布資料：議事次第、出席状況、松戸市都市公園整備活用推進委員会資料（第16回）、スケジュール

議事内容：

### 1. ワーキンググループの報告

#### 【事務局】

前回の委員会から本日までの間に開催したワーキンググループについて、事務局より報告した。

○令和4年2月17日に開催した第5回ワーキンググループの報告

①議題1：パークマネジメントプランの検討について、令和2年11月にまとめていただいた「パークマネジメントプランの基本的方向性」を基に、事務局にて作成した「パークマネジメントプランの構成案を示し、委員の皆様よりご意見をいただいた。

ご出席いただいた委員の皆様からいただいた主なご意見を以下に示す。

- ・将来像として挙げている「豊かなみどりを次世代につなぐ」の扱いについて、取り組みの方向性との関係性を明確にすべきではないか。
- ・公園の管理者に自然環境に関する知識がないと環境が劣化していくため、専門的な知識を有する必要がある。
- ・貴重種や湧水の位置など豊かな自然があることを示す公園全体の植生図を追加してほしい。
- ・地域との連携について、地域コミュニティビジネスの創出に結びつけるような発展的な書き方ができないか。
- ・ゾーニングの見直しについてどのように考えているか。

以上の委員の皆様のご意見に基づき、事務局にて修正を図り、引き続きご審議いただくこととなった。

②議題2：都市公園の運営管理に関する事例調査について、21世紀の森と広場と類似する特徴を有する公園を抽出し、書面により調査することを説明した。

- ・ご出席いただいた委員の皆様からいただいた主なご意見を以下に示す。
- ・各公園に出向いてヒアリングを実施してはどうか。
- ・調査対象の中に、同じ管理者から委託しているパターンが複数あるので、パターンが異なる事例も調べてはどうか。

以上の委員の皆様のご意見を踏まえて、調査を実施し第6回ワーキンググループにおいて報告した。

○令和4年3月17日に開催した第6回ワーキンググループの報告

①議題1：パークマネジメントプランの検討について、第5回でいただいたご意見を踏まえ事務局にて修正した案を示し、改めてご意見をいただいた。

ご出席いただいた委員の皆様からいただいた主なご意見を以下に示す。

- ・図に不足している内容、表現に対するご指摘のほか、文章表現について、よりポジティブな表現とする。

②議題2：都市公園の運営管理に関する事例調査について、事務局より調査結果を報告した。委員の皆様からは、調査結果の使用目的や対象公園について、ご意見ご質問をいただいた。

## 2. 新たなマネジメントシステムについて

### 【事務局】

報告した第5回・第6回のワーキンググループにおいて、委員の皆様からいただいたご意見を基に改めて修正した。修正した内容について説明する。

- ・8頁の図2「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの位置づけ」について、他の図での見せ方に合わせて色や矢印を修正した。
- ・10頁の図5「周辺の社会環境」について、小中学校の他に公共施設や医療施設も追加し、凡例を追加した。また、幼稚園、保育園については、図に記すと全体が見えにくくなることから、文中に追加した。
- ・11頁の図6「周辺の自然環境」について、新たな図を追加する。
- ・16頁の5)「全般的な管理・運営に関する現状と課題」の文章について、表現を見直し、現在の管理運営に対して高く評価されている内容を追記した。
- ・18頁の3) 調査の結果からみる課題の中に、カフェテラス、里の茶屋、バーベキュー場の認知度が低いことを追記した。
- ・19頁の将来像のうち「21世紀の森と広場を進化させる」の文章について、表現を全体的に見直し、前向きな表現とした。
- ・20頁の「パークマネジメントプランと将来像の関係」の図について、図全体がパークマネジメントプランであることを示したうえで、マネジメントシステムが軸となることを表現した。
- ・22頁の「SDG s への貢献」の表について、一番左に「豊かなみどりを次世代につなぐ」と記載し、SDG s との関係性を整理した。
- ・23頁に参考としてSDG s の用語解説ページを追加した。

- ・31の図中で「企業」と記載していた箇所を「事業者」に変更した。

**【委員長】**

- ・8頁の図2について、「連携」「関連」という言葉が記載されており、この言葉の違いとは何か、双方向に影響しているということか。市民が見て分かる様に表現してほしい。

**【委員】**

- ・7頁に「新しいライフスタイルの創出」と記述されている。市民の役割として、本公園との関わり方が異なってくると思う。同様に「市民のシビックプライド」という記述もあり、市民は誇りと愛着を一緒に有していると考ええる。SDGsのイベントやカフェの開店など、本公園で「映（ば）える」ことへの意向があるが、それをバラバラにやっていると意味が無い。また、本公園において、防災の意義を含めて、総合的に連携していく必要がある。

**【委員長】**

- ・連携という言葉と、その言葉の持つ意味が分かりづらいというご意見である。パークマネジメントプランとどの様に繋がるのか。単なる図の説明にとどまるのではないだろう。マネジメントプランでは、何をすればいいのかを分かりやすくしたい。新しいシステムにより、新しく本公園をつくるのが、このマネジメントプランに基づいて行っていく事であると言いきれば、流れがはっきりすると思う。プランとしては、制度上の位置づけを考えると、実際のねらいとして、このプランに基づいて何をするかを示したい。
- ・11頁の図6については、どの様に考えているのか。

**【事務局】**

- ・図だけを記載すべきか、写真も併記すべきか検討している。千葉県資料を参考として、植物だけではなく生物調査の内容も記述しようと考えている。

**【委員】**

- ・本公園は千駄堀に接しており、金ケ作の市街化調整区域や、常盤平団地などと緑として繋がっている。人が住んでいる所の緑の存在について、新しいライフスタイルの中で、考える必要がある。

**【委員長】**

- ・この図では周辺との関係を明確にしておく必要がある。本公園自体がどうなっているかの記述が抜けているのではないか。現状がどんな所なのかとか、本公園の位置づけと周辺との関係とか、本公園は市のオアシスであることなど、文章と図で現状と課題が分かればいいのだが。

**【委員】**

- ・10頁の図5では緑の分布を示せないなので、11頁に図6を作成されるのでしょうか。この図に千駄堀・金ケ作・常盤平の緑の現況を示す必要がある。

**【委員長】**

- ・緑の現状を示す必要があると思う。

**【事務局】**

- ・地形的な事では無く、土地利用として、緑の状況を図に示して補完する。

**【委員】**

- ・本公園や周辺の現況について、市民はそれほど詳しく知っていない。現状について、もっと基本的な事項を示して欲しい。例えば課題として取り上げているが、現状で市民が本公園のマネジメントに関わっている事があるはずであり、それがどうなっているか示して欲しい。

**【委員】**

- ・現状の記述は役所目線であり、市民目線での記述が不足している。記述を市民目線にすべきである。全般的に分かりやすくなっているが、本委員会を設立する必要があった時点で立ち返るべきではないか。根本的な部分が、薄れて来ているのではないか。

**【委員】**

- ・10頁の上段に「樹林地と畑が多く残存し」と記述されているが、その位置も状況もこの図から読み取ることは出来ない。
- ・3) 施設、4) 自然環境の内容が区別できない。また13頁と14頁を見て分かる様にしてもらいたい。また生態園については、市民は施設としての感覚がないと思う。「自然を利用した施設」「手つかずの自然」という様に、区分した方がいいのではないか。もっと伝えたい事は何かを、明確に表現すべきではないか。

**【委員】**

- ・10頁の図の色合いを工夫した方がいいのではないか。

**【委員長】**

- ・地図の色合いは重要な事項である。国土地理院の地図を用いているのではなく、市が作成してきた地図を用いるべきではないか。

**【委員】**

- ・10頁の図5の上段に、都市計画道路に関する記述があるが、将来的な事を考えると、この記述を記載する意味があるのだろうか。本公園の一部が都市計画道路になると考えてしまう人がいるかもしれない。

**【委員】**

- ・この都市計画道路の記述について、事実として記載することは良いが、何が言いたいのかわからない。

**【事務局】**

- ・内容的に詰め込みすぎた感がある。見る人が理解しやすい様に、図・資料を差し込むかどうか、委員長と相談しながら進めていきたい。

**【委員長】**

- ・このことは都市計画マスタープランで指摘されているはずである。この都市計画道路に関して記述するかは検討してほしい。
- ・ゾーニングについては、このプランでは見直さないということでもいいのだろうか。

**【委員】**

- ・この事について、第5回ワーキンググループにおいて議論している。このマネジメントプランで、どう変更するかというところまで盛り込むことは難しいものの、変更の余地もあるという様に記述する事であったと思う。今後、ゾーニングを変更しないというニュアンスは、伝えない方が良く考える。

**【委員長】**

- ・第5回ワーキンググループの報告で、事務局が「ゾーニングは変更まで具体的に踏み込むことは難しい」と記述している。この事が出発点になりそうである。

**【事務局】**

- ・変更しないという訳では無く、この3章では現状のゾーニングを表現しているに過ぎない。このマネジメントプランでの提言を踏まえて、ゾーニングの見直しを検討することも記述することを考えている。

**【委員長】**

- ・現状と課題について、色々と意見をいただいた。この内容が、第4章・第5章に結び付くこととなる大事なところである。

**【委員】**

- ・16頁の5)部分と17頁の7)の部分との記述が関係することを確認する必要がある。

**【委員長】**

- ・自然環境を尊重するという取り扱い方については、何回も議論したところであるが、自然環境の保全は、整備・開発・保全の方策とは異なるため、その記述については、全体のシナリオの問題でもある。現状と課題については、全体的なシナリオをもう一度検討していただくということによろしいか。

**【委員】**

- ・パークマネジメントの中で、地理的な事項は記述されているが、現段階においても、市民が本公園の維持管理に関わっている市民団体が存在することを、明記しておいて、今後の課題を示す書き方が良いと思う。

**【委員長】**

- ・マネジメントプランについて記述しているのに、この中にマネジメントの課題が明確にされていない。何故に新しいマネジメントシステムが必要なのかにつながっていくため、現状と課題をきちんと整理されていなければならない。

**【委員】**

- ・24頁の図の向きが異なるため、判読が難しい。

**【事務局】**

- ・A3版織り込み形状にするなど、見易くする様に検討する。

**【委員長】**

- ・現時点で空白の事例紹介の部分について、どの様な内容を記述するのか。この事例の紹介のウエイトは高いものと考えられる。

**【事務局】**

- ・事例調査を実施している。実現の可能性のある方法となる、事例の記述を検討している。

**【委員】**

- ・25頁に「心のバリアフリー」という記述がある。身体障害者だけではなく様々な人を意図して用いていると思う。この言葉を、身体障害者等への差別を撤廃する意味で用いていると考えられるが、この言葉はセンシティブな事項であり、修正する必要があると考える。

**【事務局】**

- ・この部分の表現については精査し、誰が見ても分かりやすい表現に修正する。

**【委員長】**

- ・この記述内容は、ハード面を前提として記述しており、オペレーションとしてどうするのかという側面からも、慎重に検討してもらいたい。

**【委員】**

- ・25頁の下段のトイレの写真は、子ども用のトイレのものか。オールジェンダーではなく、ユニバーサルデザインの様に、誰もが使いやすく快適なトイレの写真にした方が良い。

**【事務局】**

- ・写真・キャプションを工夫するなど、誰もが分かる様に見直す。

**【委員】**

- ・市では「みんなのトイレ」と表記して、各公園に設置しているので、オールジェンダートイレという意味ではなく、快適なトイレの写真として例示してもよいのではないか。

**【委員】**

- ・オールジェンダートイレと記述してあるが、これは特化した事項であり、皆が使えるトイレの方が良いと思う。この部分だけ掘り下げ過ぎている様に感じる。

**【委員】**

- ・29頁の「農業従事者」という言葉に違和感がある。農協と連携するなど記述することが出来ないのか。本公園で大農業祭を行っているが、普段は農協等と連携していない。多様な主体の中に、農協も入ると思う。例えば、柏市では農協と連携して、地産地消のレストランを運営している。本市ではこの様な取り組みが無いため、農家が困っている。例えば、本公園のカフェテリアで、期間を限定して枝豆を販売するなど、実食が出来る様な柔軟な連携が可能となるのに、もったいないと思う。
- ・農業に関係する人々と一緒に実施していく様な、緩やかに連携できる様な表現にして欲しい。

**【委員】**

- ・28～29頁の記述について、詳細に記述した部分とふわっと記述した部分が混在してバランスが取れていない。限られたスペースを有効に活用する為、詳しい記述に統一するなど、記述内容を検討する必要がある。

**【委員】**

- ・参考事例について、どの程度のボリュームで記述することを考えているのか。また現状の写真とそのキャプションが混在しており、現状と課題の部分と参考となる事例とに区分した方が良い。
- ・31頁に、榎本委員から発言された様に、現状でも市民が本公園の管理に関わっている事例も取り込むべきではないか。

**【事務局】**

- ・事例調査として、今まで外国の事例などを検討してきた。海外より国内の事例を紹介した方が良いとのご意見を受けて、現在どうすべきか迷っている。改めて検討する。

**【委員長】**

- ・この事例調査に関しては、取り急ぎ始めてもらいたい。

**【委員】**

- ・23頁のSDGsについて、それほど説明する必要があるのだろうか。一般的に知られている内容であり、もっとさらっと示した方がいいのではないか。

**【委員】**

- ・第4章と第5章の見出しが帯のある表現で示しているため、見出しに番号がついていない。しかし、34頁には5-5と見出しの番号がついており、見出しの番号表記について確認してもらいたい。
- ・34頁の5-5の記述で、このプランの期間は10年間とし、その期間が後に見直すということが良いのか。

**【事務局】**

- ・このプランの期間は、10年間としている。また、第4章と第5章に見出しは、どれも優越を付けられないので番号を付記していません。この事について、番号を付記することを含めて再検討します。

**【委員長】**

- ・20頁のパークマネジメントプランと21頁のマネジメントシステムとの関係について、説明されていない。20頁の図に示す様に、マネジメントプランはこの様な構成となっていることや、19頁の将来像の3つの項目を実施する姿であることを、判読することは難しい。

**【事務局】**

- ・このことは、本委員会で議論を重ねてきた内容であり、委員会でのご意見を踏まえて、SDGsのウエディングケーキモデルを用いて、パークマネジメントプランの考え方を策定している。SDGsの説明を23頁に示しているが、もっと分かりやすくするなど再検討します。

**【委員】**

- ・19・20頁では、緑色、オレンジ色、水色の帯で表現している将来像が、21頁の取り組みの方向性においても、同じ色の帯の部分と関係しているという説明があればいいのではないか。

**【委員】**

- ・20頁の図にはタイトルが表記されていない。同じく下段のグリーンインフラに関する説明は、色が薄れて読みづらく、これにタイトルと図番号がついているから混乱する。
- ・このウエディングケーキモデルをベースとしているが、3頁後に詳しく記述する意味はあるのか。20頁の図だけを見て、その意図が分かる様に、タイトルや表現を工夫して欲しい。そうなると23頁の説明は、不要となる。

**【委員】**

- ・ウエディングケーキモデルについては、今までの委員会において、どうするか協議してきた。ワーキンググループでは、一度削除したものの、やはり必要であると話され、残されている。

**【委員長】**

- ・20頁の図の説明をして、流れが明確になる様にしてもらいたい。

**【委員】**

- ・31頁の新しいマネジメントシステムについて、この表現では分かりづらい。

**【委員長】**

- ・特に重要な事項について、記述が抜けている。本公園の魅力を高めるという中で、市が実施してきた音楽などのイベントに関して、何処にも記述されていない。今までの委員会において、この様なイベントをどの様に開催していくべきか、相当議論して、ご意見をいただいていた。
- ・赤羽副委員長からのご意見として、31頁の「新しい融合組織」というのは大切な概念であり、このことについても相当議論してきた事でもある。

**【事務局】**

- ・委員会においてご議論いただいていた内容に基づいて、このプランを作成してきた。音楽等のイベントについての記述は、26頁上段に少し触れて記述している。なお、この資料作成において、すべての事項がイベントであり、市民の皆さんが参加してもらうことに結び付けるため、あえて、この事項については記述していない。
- ・新しい融合組織については、この図に示す様な新たな組織を作りたいという希望を示しており、説明不足の所もあり、委員長と協議して表現等を工夫したいと思う。

**【委員長】**

- ・音楽やイベントなどのプログラムについては、どうか。マネジメントのなかで、このことはかなりのウエイトを持つことになると思う。全体を通してサポーターというキーワードで説明する必要がある。どの様は方法で実施するかななどを、記述した方が良いと思う。

**【委員】**

- ・26頁の3) 歴史を感じる学びの場から新たな文化を発信します。において、松戸アートピクニックのことが記述されている。音楽を合わせて実際凄い取り組みを行ってきているので、この3) の項目で記述する事に違和感があり、新しい文化や新しい公園の価値を発信するという項目で、アートとか音楽等のイベントに関する記述があった方が良い。

**【委員長】**

- ・地域の多様な主体の関連性を記述してきたが、市民が本公園の管理を実施している市民団体が存在している。アートや音楽等のイベントに関して記述するのに加えて、この事についても触れておくも必要である。

**【委員】**

- ・34頁の図では、マネジメントプランの位置づけをイメージしていることは分かる。この文章で、10年間と期間を記述しており、この図においてこの10年間が何処なのか分からない。この図ではプランの見直しという記述が2回示されており、このことから2ループが10年ではないかと考えている。いずれにしても、期間を図表示するには、もう少し工夫してもらいたい。



**【事務局】**

- ・計画期間を示す図としては、不適格であると考えている。この図はマネジメントプランにおいて、目指すべき姿を的確に表現できると考えている。皆さんから理解が得られるような表現とする事を再検討する。なお、事務局では、この図において、下から上に向かう全てのループが10年間であると考えている。

**【委員】**

- ・そうすると、計画期間の10年間に、必要に応じて見直しを実施することが分かる様に、表現すればいいのかも知れない。

**3. その他**

**【事務局】**

- ・今後のスケジュールとして、5月にワーキンググループを開催する。この日程については、改めて調整する。なお、前回と同様に、ワーキンググループは、ZOOMによりWeb会議方式で開催する。
- ・その後、6月に第2期答申を予定している。6月の市長選との兼ね合いもあるため、こちらも早めに日程を確定させたいと考えている。

**【委員長】**

- ・本日の議事は終了する。

以上